

報 告 書

令和 7 年度第 2 回名取市障がい者等地域づくり協議会全体会の概要につきまして、下記のとおり報告いたします。

令和 7 年 12 月 8 日
健康福祉部社会福祉課障がい者支援係
技術主査 今野 彩子

1. 日 時 令和 7 年 11 月 28 日（金） 午後 2 時 00 分～午後 3 時 25 分
2. 場 所 名取市役所 議会棟第 1.2 委員会室
3. 出 席 者 <委 員>10 名
我妻 諭委員、今野 幸信委員、金野 瑠梨委員、奈尾 隆平委員
飯田 謙一委員、山川 美和子委員、矢内 雄一委員
小野寺 正道委員、服部 博委員、千葉 伸彦委員
※欠席委員：白江 浩委員、丹野 美香委員、佐藤 宏郎委員
酒井 道代委員、矢澤 ユキ江委員

<事務局>5 名
社会福祉課 大元課長、川村係長、相澤技術主幹、加藤主事、今野

<説明員>
基幹相談支援センター 板橋氏、清水氏、皆川氏
相談支援部会 熊谷氏、くらし部会 毛利氏、就労連絡会 菅井氏
こども福祉連絡会 橋浦氏

<傍聴者>1 名
4. 概 要 別紙の通り

令和7年度第2回名取市障がい者等地域づくり協議会全体会

進行：大元課長

1. 開　　会

2. あいさつ 千葉会長

3. 報告・協議 議長：千葉会長

○審議会等の会議の公開について

→「名取市審議会等の会議に関する要綱」により、原則公開となっています。会議の日程等をホームページなどにも掲載し、傍聴していただくものとしています。情報開示請求があった場合、委員名簿と会議録を公開します。会議録については、概要記録の方法で記録させていただきます。

(1) 各専門部会及び連絡会の令和7年度上半期の活動報告について

| | | |
|---------------|------------|-----------|
| ・運営会議 | 資料 1 | (今野) |
| ・相談支援部会 | 資料 2 | (熊谷部会長) |
| ・くらし部会 | 資料 3 | (毛利部会長) |
| ・相談支援連絡会 | 資料 4 | (基幹　板橋氏) |
| ・就労連絡会 | 資料 5 | (アタラタ菅井氏) |
| ・グループホーム連絡会 | 資料 6 | (奈尾委員) |
| ・精神保健医療福祉連絡会 | 資料 7—1、7—2 | (基幹　皆川氏) |
| ・こども福祉連絡会 | 資料 8 | (児発　橋浦氏) |
| ・医療的ケア児等支援連絡会 | 資料 9 | (基幹　板橋氏) |

<質疑応答>

今野委員：相談支援部会と相談支援連絡会との違いについて伺いたい。

事務局：相談支援部会を上位とし、検討する課題について対応、解決策等を検討している。

相談支援連絡会においては、主に事業所間での情報交換、事例検討などを通し、より現場に近い部分での課題解決を行い両輪で進んでいるものである。

今野委員：相談支援専門員の確保について、相談支援事業者が集まる場において、名取市の事業展開を促す等の他、福祉関係の就職説明会の場を活用すると言った、何か市として取り組みは行っているのか。また相談支援事業は処遇改善手当がないが、事務費の上乗せなど行政側の支援があると良いと思うがどうか。

事務局：説明会等については具体的な検討は行っていないが、改めてご意見をいただきたいということで検討させていただく。処遇改善手当相当のご意見については財政支出を伴うものであり、委託料等についても現在予算要求時期であることから、現時点では具体的に申し上げられない。また、計画相談・障害児相談支援業務については、現在も単価契約による上乗せ措置を行っていることから、引き続きご協力をいただきたい。

今野委員：医療的ケア児の受け入れについて、体制は整備しつつあるのか。

事務局：宮城県医療的ケア児等相談支援センターに介入してもらい、これまで就学や公立保育所入所のガイドライン作成等、受け入れ部分の整備がなされている。

今野委員：医療的ケア児等については、看護師不在のところでは受け入れられない。看護師確保の課題は、市だけの取り組みでは難しい。宮城県へも伝えているが、予算配分を考えた時に、医療的ケア等への重点配分をするという考えも必要になってくるのではないか。市においても、重点支援、配分を検討してもらいたい。

山川委員：医療的ケアが必要な方は、児だけではなく、成人になった方も多くおられる。連絡会では児についてのみ取り扱うのか。成人においても、レスパイトの受け入れ等は不十分な状況である。

事務局：連絡会については、対象者を医療的ケア児等としており、成人になった方も含めて支援体制を検討していく。

千葉会長：看護師確保については様々課題があり、特に通学についてハードルとなっている自治体が多いようだ。また、働く側の看護師にも、短時間勤務の希望がある場合や、子どもたち一人ひとり医療的ケアが異なるためサポートが欲しいという要望等がある。就学前に通所している事業所がある場合には、就学時に情報交換できる体制があると、学校で勤務する看護師の不安も軽減すると思う。医療的ケア児がクローズアップされているが、いずれ地域で暮らし始めることとなる。地域にある社会資源について、色々利用できる部分もあると思うので、移行期の課題については、名取市でもぜひ検討してもらいたい。

服部委員：グループホーム連絡会に伺いたい。地域連携推進会議について、具体的にどのようなメンバー構成となるのか、民生委員も含まれるのか。

奈尾委員：地域連携推進会議の構成員については、利用者本人、家族、町内会や民生委員等の地域の関係者が必須となっている。その他に、福祉に知見のある方、経営に知見のある方、行政の職員となっている。できればこれを機会に、民生委員とのつながりを作っていかないと考えている。

4. 各関係機関との情報交換

山川委員：名取支援学校の学校運営協議会制度＝コミュニティスクールの役員を担っている。子供たちが地域と連携しながら、自分たちなりの地域づくりを目指している。どういった形で社会参加、社会貢献できるかを考えている中で、例えば、ててマルシェを市役所で開催する際に一緒に参加できないか等、相談をしていきたい。

矢内委員：地域と連携していきたいと考えているが、学校の中の様子が見えないという意見もある。生協の販売店への参加や、地域の回覧版でのお知らせ、駅のウィングロードへの作品展示等をおこなっているが、さらに生徒の活躍の場を広げられる機会にできればと考えている。

千葉会長：学生も手伝えることがあれば一緒に行いたい。仙台市の事業所になるが、利用者と学生との交流会において、学食での食事、ボッチャ等を行う機会があった。両者から良い感想が聞かれ、地域の中での一つのきっかけが、利用者の生活や意識を大きく変えることもあると思う。

千葉会長：今年度中に、総務省による親亡き後のアンケート調査を実施予定としており、調査への協力をしている。宮城県内を対象にしており、各障害のある方、家族が対象者である。

5. その他

- ・現委員の任期満了に伴う推薦依頼について
- ・次年度の第1回目の日程について（5月下旬～6月頃を予定）

6. 閉会